

一般社団法人日本写真学会 第9回 定時社員総会

日 時：2020年（令和2年）6月4日（木）15：00～15：50
会 場：東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所
〒226-8503 横浜市緑区長津田町4259-J1 棟

【第1号議案】2019年（平成31年）度事業報告（案）

1. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第5条（1））
 - 1-1 学会誌の刊行に関する事項
 - 1) 発行回数 6回 日写誌82巻2号～4号, 83巻1号, BSPIJ vol.29-1, vol.29-2
 - 2) 総頁数 314頁（日写誌）, 34頁（英文誌）
 - 3) 特集
画像の情報セキュリティ（82巻2号）
2018年のカメラ（82巻3号）
2018年の写真の進歩（82巻3号）
光機能性材料の新機軸（82巻4号）
フォトネクスト（82巻4号）
画像保存（83巻1号）
 - 4) 主要掲載事項および件数（Web 英文論文誌 BSPIJ を含む）

一般論文	8件	口絵	4件
ノートおよびレター	0件	紹介（写真のある美術館）	3件
技術レポート	1件	追悼	2件
講座（ワンポイント）	2件	書評	2件
解説	20件	会報	4件
写真史	1件	その他（受賞者案内）	1件
 - 5) 科学技術振興機構の電子アーカイブ J-STAGE に、発行後1年経過した論文・解説等の記事を掲載した。
 2. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））
 - 2-1 研究発表会、講演会などの実施
 - 1) 第37回「写真好き」のための講演会（令和元年6月11日、日本カメラ財団・日本カメラ博物館）

第一部：講演「古銀塩乾板の復元（旧官営製鐵所・八幡）」
—明治時代の世界遺産の写真がよみがえる—
講師：デジタルフォト研究会・日本写真学会幹事（元セイコーエプソン）岩本康平氏

第二部：日本カメラ博物館特別展「平成のカメラ展」鑑賞（会場案内・説明付き）
解説：日本カメラ博物館学芸員
参加者30名
 - 2) 2019年度 PHOTONEXT 技術アカデミー（令和元年6月18日、パシフィコ横浜）

【セッションⅠ：映像出力と表現技術】

講演1. 「いまさら聞けないカラー・マネージメントの話」
日本大学芸術学部写真学科 甲田 謙一氏

講演2. 「写真の『リアル』な質感表現技術」
デジタルフォト研究会 岩本 康平氏

講演3. 「被写体並びに表現方法別の機材選び」
写真家 相原 正明氏

【セッションⅡ：最新ミラーレスカメラシステムの技術動向】

講演4. 「最新ミラーレスカメラ事情」
日本カメラ財団 日本カメラ博物館 市川 泰憲氏

講演5. 「OM-D E-M1 シリーズの開発」
オリンパス（株）高瀬 正美氏

講演6. 「新次元の光学性能を目指したZマウントシステムの開発」
（株）ニコン 風早 聡志氏, 真杉 三郎氏

講演7. 「Lマウント採用フルサイズミラーレス LUMIX S1R/S1の開発」
パナソニック（株）高橋 征契氏

講演7件, 参加者数56名（延べ）
 - 3) 2019年度日本写真学会年次大会（令和元年7月4日～5日、千

- 葉大学けやき会館)
画像関連学会連合会 第3回合同年次大会
大会スローガン「協創で築く豊かな画像文化—Enriched Imaging Culture by Co-innovation」
- 第1日 7月4日（木）/July4（Thu.）
・国際会議：ICAI（International Conference on Advanced Imaging）2019
・日本写真学会 インタラクティブセッション—ショートプレゼンテーション 19件
インタラクティブセッション 3学会合同 19件
ショートプレゼンテーション 7/4（木）9：30～10：27（1階大ホール）
ポスター発表 7/4（木）13：00～15：30（3階レセプションホール）
表彰式 7/4（木）16：00～16：30（3階 会議室4）
- 第2日 7月5日（金）/July 5（Fri.）
・オーラルセッション /Oral Session
・受賞講演 & 一般講演
A 会場 12件 7/5（金）9：50～16：10（1階大ホール）
B 会場 9件 7/5（金）11：00-16：10（3階 会議室4）
【カメラ・撮像素子】：5件
【材料系】：3件
【写真史・画像保存関係】：5件
【ミューオングラフィック・原子核乾板】：9件
・一般社団法人 日本写真学会 学会賞授賞式 7/5（金）13：20～14：10 1階大ホール
総参加者数65名
- 4) 第38回「写真好き」のためのデジタルカメラ・交換レンズ生産工場 見学会ツアー
富士フイルムオプティクス株式会社 大和工場（令和元年7月18日、宮城県黒川郡大和町同工場）
第一部：工場紹介と講演
工場紹介：「富士フイルムオプティクス（株）大和サイト紹介」
講演：「富士フイルム製品とそれを支える技術について」
第二部：ガイド付きの工程見学と大和工場生産最新機種タッチ、試写
参加者30名
- 5) 第16回日本写真学会光機能性材料セミナー（令和元年8月29日、富士フイルム東京ミッドタウン本社）
テーマ：—光機能性材料の新機軸 その研究手法から新しい応用展開まで—
【プログラム】
基調講演「光触媒の広がり —人工光合成とセルフクリーニング、そしてカーボンリサイクルへの挑戦」
東京理科大学光触媒国際研究センター：藤嶋 昭氏
講演1. 「水分解微粒子光触媒の開発の現状と展望」
東京大学大学院工学系研究科：堂免 一成氏
講演2. 「ペロブスカイト構造ハロゲン化鉛の特異な光・電子物性」
物質・材料研究機構 宮野 健次郎氏
講演3. 「化学で挑む高性能塗布型太陽電池の開発：ペロブスカイト太陽電池の実用化に向けた取り組み」
京都大学化学研究所 若宮 淳志氏
講演4. 「光電変換型光機能性材料の性能向上のための横断的分析」
日本写真学会 谷 忠昭氏
参加者36名
- 6) 第7回天体写真技術研究会（令和元年10月2日、ソニーシティ大崎）
テーマ：『最新のTV 技術動向と天体写真へのインパクト』
【プログラム】

講演 1:『4K/8K, HDR, WCG などの最新 TV の高画質技術・規格の話』

ソニーホームエンターテインメント &

サウンドプロダクツ (株) 小倉敏之氏

講演 2:『ダイナミックレンジが広い天体写真を表示する上での課題』

日本写真学会天体写真技術研究会主査 塩田和生氏

デモと討議:『サンプル画像の表示デモと討議』

デモ:小倉, 塩田, 蒔田 ディスカッション:参加者全員

講演 2 件とデモ・ディスカッション, 参加者:39 名

7) 画像関連学会連合会 第 6 回秋季大会 (令和元年 10 月 31 日～11 月 1 日 京都工芸繊維大学 60 周年記念館他)【主催】画像関連学会連合会,【共催】京都工芸繊維大学

第 1 日 10 月 31 日

●基調講演・特別講演 (60 周年記念館 1F 記念ホール)

基調講演「人生を変える VR/MR 技術」奈良先端技術大学院大学 清川清氏

特別講演 1.「京都市電写真アーカイブとその活用 /KYOTO メモリーグラフ」中村浩史氏, 高橋彰氏

特別講演 2.「デザイン活動と映像メディアの新しい関係—KYOTO Design Lab での事例を中心に—」

京都工芸繊維大学 池側 隆之氏

●ショートプレゼンテーション (60 周年記念館 1F 記念ホール)

●ポスター発表 (60 周年記念館 2F 大セミナー室)

●情報交換会 (60 周年記念館 2F 大セミナー室)

第 2 日 11 月 1 日

●特別講演 (60 周年記念館 1F 記念ホール)

特別講演 1.「京都市電写真アーカイブとその活用 /KYOTO メモリーグラフ」中村浩史氏, 高橋

特別講演 3.「ITMA2019 に見る最先端デジタルテキスタイル技術の世界」キヤノン (株) 城田衣氏

特別講演 4.「生物に学ぶ表面の微細構造と機能」

工学院大学 鈴木 健司氏

特別講演 5.「集団体験型 VR プラネタリウムへの挑戦と今後の展望」

コニカミノルタプラネタリウム (株) 大谷 健一氏

特別講演 6.「100 枚モザイク撮影による大判を超える天体写真」陣馬写真工業 土生 祐介氏

●オーラルセッション

オーラルセッション A:リモートセンシングと制御 (60 周年記念館 1F 記念ホール)

オーラルセッション B:画像応用ノイズと知覚

(60 周年記念館 2F 大セミナー室)

オーラルセッション C:Nuclear Imaging/光機能・応用材料/インクジェット & 3D 技術 /グラフィックアーツ (13 号館 4F 多目的室)

発表総件数 76 件 (印刷:9, 画像:19, 画像電子:24, 写真 24 件), 写真学会参加者 52 名

8) 第 27 回カメラ技術セミナー (令和元年 11 月 6 日国際ファッションセンター 3F KFC Hall Annex)

デジタルカメラ各社とも精密機械, 光学, 電気, 情報処理の融合による新たな価値提案を行っている状況の中で, 若手技術者に各種技術情報を提供し, また技術者同士の交流の場の提供を目的に開催した。

【プログラム】

講演 1.「フルサイズミラーレス用 世界最小大口径ズームレンズ」(株)タムロン 平川 祥一朗氏

講演 2.「EOS R システム用 RF レンズの開発」

キヤノン (株) 前瀧 聡氏

講演 3.「3 回屈曲魚眼光学系を用いた全天球カメラ「RICOH THETA Z1」」(株)リコー 鳥海 裕二氏

講演 4.「OM-D E-M1 シリーズの開発」

オリンパス (株) 高瀬 正美氏

講演 5.「ラージフォーマットミラーレスカメラ FUJIFILM GFX100 の開発」

富士フイルム (株) 重歳 基雄氏

講演 6.「フルサイズミラーレスカメラ LUMIX S1R・S1 の開発」パナソニック (株) 角 和憲氏

講演 7.「金星を撮す 5 台のカメラ」

JAXA 宇宙科学研究所 中村 正人氏

講演 7 件, 参加者数:131 名

9) 令和元年度画像保存セミナー (令和元年 11 月 29 日, 東京都写真美術館ホール)

日本写真学会画像保存部会 (画像保存研究会・デジタルアーカイブ研究会) は, 次世代に伝えるべき写真画像およびその他の画像記録物の確実な保存を目指し, そのための知識の普及と技術の確立を目的として, 11 学会・研究会協賛および東京都写真美術館協力のもと, 日本写真学会画像保存セミナーを開催した (第 37 回)。本年度は, 劣化をテーマに保存や再制作の諸問題, 劣化の要因, 劣化状態の診断, 劣化対策としての色管理や再現の試みについてケーススタディを織り交ぜた講演会を企画した。

【プログラム】

講演 1.「文化財としての写真原板の活用と写真保存における意義」日本大学芸術学部 高橋則英氏

講演 2.「シカゴ美術館における写真の保存と修復の現状」アメリカ文化財保存修復学会 (AIC) 会員

堀田 文氏

講演 3.「文化財写真の保存に関するガイドライン」の改訂について」オリンパス (株) 吉田 英明氏

講演 4.「化学的分析による写真用 TAC ベースの劣化診断」(株)足柄製作所 山本大輔氏

講演 5.「紙資料および映像のデジタル化における色の再現について」

(株)インフォマージュ 綿引雅俊氏, 国立映画アーカイブ大関勝久氏, 富士フイルム (株) 山田 誠氏

講演 6.「芸術の保存と継承」東京藝術大学 平 諭一郎氏

講演 6 件, 参加者数 118 名

10) 第 24 回アンビエント技術研究会 (令和元年 12 月 12 日, 東京工芸大学 中野キャンパス 5 号館)

プリントドエレクトロニクスの世界では, 低温溶液プロセスに適した有機半導体材料や金属材料の研究開発が進み, 実用レベルの性能を示す素子もできるようになりつつあり, これらの素子を組み合わせて構成される機能デバイスと人との相互作用の最適デザインを描き, それに適合する, 素子, プロセス, および材料のめざすべき目標を明確化することが求められている。新しい製膜プロセスを取り上げ, トナー型の無溶媒製膜法および加熱溶融法によりプリントドエレクトロニクス材料を製膜する研究で知見をお持ちの研究者から解説していただき理解を深める研究会を行った。

講演 1.「トナー型プリントドエレクトロニクスのための金属, 有機半導体, 絶縁体のパターニングおよび薄膜化」

千葉大学 大学院工学研究院 酒井 正俊氏

講演 2.「加熱溶融による有機半導体薄膜の作製と応用」

信州大学学術研究院繊維学系 市川 結氏

参加者:14 名

11) 西部支部 特別講演会 & 展示 (令和元年 12 月 19 日～21 日, 京都工芸繊維大学プラザ KIT)

【プログラム】

講演 1.「古銀塩乾板の復元 (旧官営製鐵所・八幡) についての報告」(12 月 19 日)

日本写真学会写真文化財 (古写真) 研究会主査, 日本写真学会幹事 岩本 康平氏

講演 2.「壁画撮影を深化する ～高精細はあたりまえ キトラ・高松塚からの進歩～」(12 月 20 日)

奈良文化財研究所 中村 一郎 氏

講演3.「大判写真を高精細度に読み取ることで見えてくる、明治初期の鉄道施設」(12月21日)

鉄道史資料保存会 鉄道史料編集長・京都大学鉄道研究会 会員 (OB) 西城 浩志 氏

12) メディカルイメージング連合フォーラム2020 (令和2年1月29日～30日, 日本アイソトープ協会主催, 日本写真学会共催, 那覇 沖縄青年会館)

13) 日本写真学会・日本印刷技術協会共催 プリント技術セミナー～進化したデジタル×紙×マーケティング～ (令和2年3月3日 日本印刷技術協会 (JAGAT) 3F セミナールーム)

【プログラム】

講演1.「デジタル×紙×マーケティング」報告

公益社団法人日本印刷技術協会 郡司 秀明氏
「色評価用LEDガイドライン」報告

講演2.「デジタル印刷を中心とした技術動向」

(株)バリューマシーンインターナショナル 宮本 泰夫氏
講演3.「クロスメディアを中心としたビジネスソリューション」
(株)スイッチ 影山 史枝氏

3. 研究及び調査の実施 (定款第5条 (3))

3-1 委員会組織の拡充

技術領域の多様化や産業構造の変化に対応すべく、デジタル写真基礎講座実行委員会は廃止しつつ、技術委員会の直下に「リアリティ再現研究会」、一昨年度に技術委員会から分離独立した写真文化拡大委員会に「写真文化財(古写真)研究会」の2研究会を新規発足して活動を開始した。また新たに、技術委員会の所管で「日本写真学会 技術者紹介サービス」を開始した。

3-2 技術委員会

技術委員会の各組織は、以下のような活動を行った。

【画像入出力部会】

・画像入出力研究会

今年度は研究会としての活動は無かった。

・カメラ技術研究会

7回の研究会を開催した。第27回カメラ技術セミナーを企画・運営した。また、学会誌での特集、年次大会の運営に協力した。

・表現と技術研究会

今年度は研究会としての活動は無かった。

【アンビエント画像部会】

今年度は部会としての活動は無かった。部会メンバーから、学会誌への投稿や年次大会での発表がなされた。

【医用画像部会】

・医用画像研究会

メディカルイメージング連合フォーラム2020(委員長森健策(名古屋大)主催電子情報通信学会医用画像研究会に共催(於沖縄県那覇市青年会館, 2020年1月29-30日, 共催: 日本医用画像工学会 JAMIT フロンティア2016, 医用画像情報学会, 日本生体医工学会生体医用画像研究会, 日本真学会)を共催した。

【画像保存部会】

年次大会および秋季大会および画像保存セミナー(画像保存研究会およびデジタルアーカイブ研究会共催)の企画・運営に参加した。画像保存セミナーは平成31年11月29日, 東京都写真美術館ホールで開催, 有料参加者118名, 全134名。

・画像保存研究会

令和元年度 画像保存セミナーの企画・運営を行った。

・デジタルアーカイブ研究会

・デジタルアーカイブ研究会勉強会を平成31年4月18日にIMAGICA Lab. 東京映像センターにて、「デジタル写真の著作権違反検索について」(講師 COPYTRACK 中野氏)をテーマに行った。

・令和元年度 画像保存セミナーの企画・運営を行った。

・カラーマネージメント関連のワークショップの準備を行っ

た。

・文化財写真保存ガイドライン検討グループ(文化財写真技術研究会と共同)

「文化財写真の保存に関するガイドライン」の改訂を審議, 2020年内に発行予定。

【アンビエント技術部会】

・アンビエント技術研究会

第24回アンビエント技術研究会を令和元年12月12日に東京工芸大学中野キャンパス5号館にて開催した。参加者は14名。

講演1『トナー型プリンテッドエレクトロニクスのための金属, 有機半導体, 絶縁体のパターンニングおよび薄膜化』(千葉大学 酒井 正俊 氏)

講演2『加熱溶融による有機半導体薄膜の作製と応用』(信州大学 市川 結 氏)

学会の中で大きな柱とすべく アンビエント技術研究会に取り組みできたが, 学会を支える中心企業メンバーのアクティビティが低く, 盛り上がっていないのが実情。この状況を打破するためNEXTアンビエント研究会の目標検討を開始した。

・光機能性材料研究会

第16回光機能性材料セミナー「光機能性材料の新機軸—その研究手法から新しい応用展開まで—」を令和元年8月29日, 富士フイルム東京ミッドタウン本社201B 会議室にて開催(講演5件, 参加者数: 32名)した。

【科学写真研究会】

・年次大会・秋季研究発表会での原子核乾板に関する研究発表を勧誘し, 年次大会で関連12件, 秋季研究発表会で関連10件の発表を行い, この分野の拡大を図った。学会誌への投稿や解説執筆を勧誘し, 日本写真学会誌に1件と, 英文誌BSPIJに関連する投稿論文2件の掲載を得た。

※第33回固体飛跡検出器研究会を令和2年3月24日～25日に日本写真学会協賛で開催予定であったが, 新型コロナウイルスの影響で中止となった。

【天体写真研究会】

・発足6年目の本年度は, 前年と同様, 天体写真の画質に関係が深い画像技術の原理を知って作品作りのレベルアップにつなげてもらうことを目指し, 研究会を1回開催した。第7回天体写真技術研究会『最新のTV技術動向と天体写真へのインパクト』(令和元年10月2日, ソニーシティ大崎, 参加者41名)

講演1:『ダイナミックレンジが広い天体写真を表示する上での課題』 塩田和生(日本写真学会)

講演2:『4K/8K, HDR, WCGなどの最新TVの高画質技術・規格の話』

小倉敏之(ソニーホームエンターテインメント&サウンドプロダクツ(株))

※令和2年3月に予定した「画像編集の最新状況と現場見学」(IMAGICA Lab.)は, 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし, 来年度に実施することとした。

【写真史研究会】

研究会4年目につき, 写真並びに技術などの歴史的研究に関する研究発表を勧誘し, 年次大会で関連2件の発表を行い, この分野の拡大を図った。「写真好き」のための定例講演会への協力を実施した。

【教育への写真応用研究会】

・研究会3年目につき, 子どもを対象として写真を利用したワークショップの実践を行い, この分野の拡大を図った。タイトル:「針穴写真ワークショップ」(令和2年2月22日(土)・23(日) 各日午後1時～4時)

場所: 神奈川県逗子市体験学習施設スマイル, 内容: 針穴写真の屋外での撮影と暗室での現象

目的: 画像の原理と画像を定着させる化学変化を学ぶとともに

に、視覚のおもしろさを伝える

講師：酒井朋子氏（千葉大学工学部技術系職員（一社）日本写真学会会員）

主催：神奈川県立近代美術館（公財）かながわ国際交流財団 逗子市教育委員会、協力：千葉大学

※3月28日(土)・29日(日)に予定していた2回目のワークショップは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

【リアリティ再現研究会】（新設）

スチル撮影された画像の多くは紙へのプリント出力をしていたが、ディスプレイ技術の発展に伴いプリントせずに鑑賞することが増えてきている。特に4K、8Kの解像度やHDRの高輝度に対応したディスプレイの登場によって、よりリアリティのある鑑賞が可能になってきた昨今の状況に鑑み、リアリティ再現研究会を発足し、活動目的・活動内容の検討を行った。

研究会主催のセミナー・ワークショップを行い、ディスプレイメーカーからアドバイスとともにカメラメーカーとの議論を通じて、スチル画像鑑賞のためのディスプレイの最適な設定について共有する場を行う。

【進歩レビュー分科会】：

専門分野別の技術進歩年次レビュー「2018年の写真の進歩」作成を行い、学会誌（81巻3号）に特集記事として掲載した。

3-3 写真文化拡大委員会

写真文化拡大委員会の各組織は、以下のような活動を行った。

【「写真好き」のための定例講演会実行委員会】

・2回の「写真好き」講演会と工場見学会を開催し、延べ49名を超える参加者があった。

・写真関連の生産現場見学の一環として、昨年度のレンズ工場2社の見学会に続き、デジタルカメラ・交換レンズ生産工場見学会ツアー（富士フィルムオプティクス（株）大和工場（宮城県黒川郡大和町））を実施した。

・2月以降に企画していた2件の「写真好き」講演会は、新型コロナウイルス感染防止の為、止む無く延期の対応を行った。

【PHOTONEXT 技術アカデミー実行委員会】

今年度もPHOTONEXT 技術アカデミーを開催した。例年通り二つのセッションで構成し、「映像出力と表現技術」ではカラーマネージメントの基礎、写真の質感表現、撮影シーンに合わせた機材選びについての3講演、「映像出力と表現技術」では最新ミラーレス事情（日本カメラ博物館）、オリンパス、ニコン、パナソニック各社からミラーレスカメラシステムの技術紹介の4講演、計7講演を実施した。幅広いユーザー層に実用的な講演演目になるよう、共催の写真感光材料工業会や後援の（株）プロメディアと連携して講演プログラムの充実を図った。

【CP+ 実行委員会】

※CP+2020は、2020年2月27日～3月1日パシフィコ横浜の会場に日本写真学会単独の展示ブースを1階コンコースの展示ホール出入口横に出展を予定し、展示物（会長の挨拶、目的と活動、学会賞受賞紹介（技術賞2件・研究奨励1件）、6つの研究会紹介など学会活動の紹介の準備を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、CP+2020が中止となり、新規会員獲得活動が出来なかった。

【新規プリンティング技術研究会】

日本写真学会・JAGAT印刷総合研究会共催「プリント技術セミナー～進化したデジタル×紙×マーケティング～」を日本印刷技術協会セミナールームにて開催した。

【写真技術セミナー実行委員会(写真好きのためのワークショップ)】

・写真好きのための講演・ワークショップとして、写真の楽しさを学び、写真の世界を広げる実習を通して、写真文化拡大を担って頂く『写真のエキスパート』を増やしていく目的で、「写真のエキスパートになろう～プリントコース～」講習会を企画し、2020年度実施を計画している。

【写真文化財（古写真）研究会】（新設）

・第37回写真好きの定期講演会「古塩塩乾板の復元（旧官営製鐵所・八幡）—明治時代の世界遺産の写真がよみがえる—」をきっかけに、写真文化財（古写真）に関するプロジェクトの検討を開始した。企画検討委員会を組織し、活動目的・活動内容およびゴールに関する議論を深め、研究会として主査と委員を決めて、調査と論文投稿と調査含めた実施事項の具体化を進めることとなった。

4. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款第5条（4））

4-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施

- 1) 東京写真月間2019（令和2年6月1日写真の日を中心に5月～7月に亘り開催される写真イベント：（公社）日本写真協会主催、日本写真学会以下17団体協賛）
- 2) PHOTONEXT2019 技術アカデミー（2019年6月18日（火）パシフィコ横浜2F204室）
日本写真学会・写真感光材料工業会共催、（株）プロメディア後援、（公社）日本写真協会、（一社）日本写真文化協会、（協）日本写真館協会、（一社）日本写真映像用品工業会、日本フォトイメージング協会協力）
- 3) 画像関連学会連合会 合同大会2019：日本画像学会、日本印刷学会、日本写真学会共催；2019年7月2日～7月5日、千葉大学けやき会館ならびに工学総合研究棟コンファレンスルーム）
- 4) 第56回アイソトープ・放射線研究発表会（2019年7月3日～5日、東京大学 弥生講堂、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会他28学会が協賛）
- 5) 第15回光機能性材料セミナー（2019年8月29日（木）、富士フィルム（株）本社2F会議室、日本化学会、応用物理学会、高分子学会、光化学協会、日本画像学会、電気化学会、有機合成化学協会、画像電子学会、日本光学会、照明学会、日本色彩学会、日本印刷学会、日本表面科学会、電気学会、色材協会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、日本オプトメカトロニクス協会、日本液晶学会 協賛）
- 6) 第27回カメラ技術セミナー（2019年11月6日（水）国際ファッションセンター3F KFC Hall Annex、照明学会、映像情報メディア学会、電子情報通信学会、日本オプトメカトロニクス協会、電気学会、日本物理学会、日本印刷学会、日本機械学会、画像電子学会、日本画像学会、情報処理学会、精密工学会、応用物理学会、日本化学会 協賛）
- 7) 令和元年度画像保存セミナー（令和元年11月29日、東京都写真美術館ホール、日本写真芸術学会、公益財団法人日本博物館協会、一般社団法人文化財保存修復学会、文化遺産国際協力コンソーシアム公益社団法人日本写真家協会、日本アーカイブス学会／情報保存研究会、一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会、一般社団法人画像電子学会、一般社団法人日本印刷学会、一般社団法人日本画像学会 協賛、東京都写真美術館 協力）
- 8) 画像関連学会連合会 第6回秋季大会（令和元年10月31日～11月1日 京都工芸繊維大学60周年記念館他 画像関連学会連合会主催、京都工芸繊維大学共催）
- 9) メディカルイメージング連合フォーラム2020（令和2年1月29日～30日、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会共催、那覇 沖縄青年会館）
- 10) 西部支部 特別講演会 & 展示（令和元年12月19日～21日、京都工芸繊維大学プラザKIT、京都工芸繊維大学 協力）
- 11) 日本写真学会・日本印刷技術協会共催 プリント技術セミナー～進化したデジタル×紙×マーケティング～（令和2年3月3日日本印刷技術協会（JAGAT）3F セミナールーム）

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条（5））

- 5-1 2019年（令和元年）度学会賞の授与
授賞式において、2019年（令和元年）度学会賞の授与を行った。学会賞受賞者は次の通りであった。

名誉賞 該当なし

功績賞 該当なし

- 功労賞 大川 祐輔 (千葉大学)
 学術賞 飯野 裕明 (東京工業大学)
 技術賞 宮田 正人・島崎 泰成・田嶋 智之・堀内 円嘉 (オリンパス)
 技術賞 市川 芳樹 (ニコン)
 論文賞 久下 謙一・安達 考洋 (千葉大学)
 論文賞 矢島 仁・佐々木 麻衣子・山田 勝実 (東京工芸大学)
 東陽賞 斎藤 多喜夫 (横浜外国人居留地研究会会長)
 進歩賞 該当なし
 会長表彰 該当無し
- 5-2 2019年(令和元年)度コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励金(写真研究奨励金)授与授賞式において、2019年(令和元年)度コニカミノルタ写真研究奨励金の授与を行った。
 交付対象者 福田 努 (名古屋大学)
- 5-3 2019年(令和元年)度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与授賞式において2019年(令和元年)度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与を行った。
 交付対象者 土生 祐介 (陣馬写真工業)
- 5-4 2020年(令和2年)度学会賞選考
 2020年(令和2年)度の学会賞は、各選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。
- 名誉賞 該当無し
 功績賞 岩崎 仁 (京都工芸繊維大学)
 学術賞 白石 幸英 (山陽小野田市立山口東京理科大学)
 技術賞 新田 和馬・一谷 修司・将積 直樹 (コニカミノルタ)
 技術賞 佐藤 裕之・藤屋 隆明 (リコー)・鳥海 裕二 (リコーイメージング)
 論文賞 久下 謙一・安達 考洋 (千葉大学)、梅本 篤・中 竜大 (東邦大学)・小平 聡 (量子科学技術研究機構放射線医学総合研究所)
 進歩賞 梅本 篤宏 (名古屋大学)
 進歩賞 宮本 成悟 (東京大学)
 東陽賞 矢口 博久 (千葉大学)
 会長表彰 該当無し
- 5-5 2020年(令和2年)度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考
 2020年(令和2年)度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金は、選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。
 交付対象者 岩本 康平 (日本写真学会幹事・元セイコーエプソン)
- 5-6 2020年(令和2年)度日本写真学会小島裕研究奨励金交付対象者の選考
 2020年(令和2年)度日本写真学会小島裕研究奨励金は、選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。
 交付対象者 白石 卓也 (東邦大学)
6. その他目的を達するために必要な事項(定款第5条(6))
- 6-1 総会(1回)
 2019年(令和元年)5月21日(火)、三菱製紙本社11階会議室(両国)において一般社団法人化に移行後8回目の定時社員総会が開催され、2018年(平成30年)度事業報告、2018年(平成30年)度決算報告、2018年(平成30年)度会計監査報告、2019年(令和元年)度事業計画案、2019年(令和元年)度取支予算案、2019年(令和元年)度役員等の選任(臨時理事会による会長・副会長選任の報告含む)、会員の除名の計6件の議案が承認された。
- 6-2 理事会(7回)
 隔月定例に開催し、本学会の運営に必要な事項を審議した。
- 1) 会務分担
 役員及び会務の分担は次の通りであった。
- ・理事:

- 会長(写真学会代表理事、画像連合会2019年度議長、画像連合会代議員) 中野 寧 (コニカミノルタ)
 副会長(写真学会代表理事、企画委員長、編集委員長) 山田勝実 (東京工芸大学)
 副会長(写真学会代表理事、技術委員長、画像連合会代議員、光機能性材料研究会主査) 加藤隆志 (富士フィルム)
 総務理事、広報委員長 松澤良紀 (オリンパス)
 西部支部長、合同秋季大会実行委員長 岩崎 仁 (京都工芸繊維大学)
 財務委員長、アンビエント技術研究会副主査・2019年次大会実行委員 飯野裕明 (東京工業大学)
 庶務委員長、進歩レビュー分科会主査、文化財写真保存ガイドライン検討G主査 吉田英明 (オリンパス)
 画像保存部会長 大関勝久 (名古屋大学)
 写真技術セミナー、デジタル写真基礎講座 甲田謙一 (日本大学)
 PHOTNEXT 技術セミナー、カメラ技術研究会、写真好きのため定例講演会 鈴木博文 (ニコン)
 アンビエント技術部会長、アンビエント技術研究会主査、国際化委員長/ICAI委員 半那純一 (東京工業大学)
 新規プリンティングセミナー担当 郡司秀明 (日本印刷技術協会)
 2019年次大会実行委員長・プログラム委員長、編集副委員長 久下謙一 (千葉大学)
 秋季大会実行委員 中川邦弘 (三菱製紙)
 天体写真技術研究会副主査、写真のエキスパートになろう講習会委員 蒔田 剛 (キヤノン)
 技術副委員長、科学写真研究会委員 吉田哲夫 (名古屋大学)
 写真文化拡大副委員長、写真のエキスパートになろう講習会委員 西澤 敦 (セイコーエプソン)
 写真史・写真技術史研究会主査 白山真理 (日本カメラ財団)
 広報副委員長、画像保存研究会・デジタルアーカイブ研究会主査 清野晶宏 (IMAGICA Lab.)
 財務副委員長 今泉祥子 (千葉大学)
- ・監事
 写真史・写真技術史研究会副主査 高田俊二 (千葉大学)
 画像入出力部会長 豊田堅二 (日本大学)
- ・フェロー
 写真文化拡大委員長、写真好き講演会実行委員長、表現と技術研究会他 小林裕幸 (千葉大学)
 光機能性材料研究会 谷忠昭 (元富士フィルム)
- ・幹事:
 広報副委員長 桑山哲郎 (千葉大学)
 画像入出力部会長 豊田堅二 (日本大学)
 画像保存部会副部会長・画像保存研究会主査 山口孝子 (東京写真美術館)
 画像保存部会・画像保存研究会 高橋則英 (日本大学)
 画像保存部会・デジタルアーカイブ研究会主査 清野晶宏 (IMAGICA Lab.)
 アンビエント画像部会長 津村徳道 (千葉大学)
 医用画像副部会長 桑原孝夫 (富士フィルム)
 医用画像研究会 松本政雄 (大阪大学)
 アンビエント技術研究会副主査・光機能性材料研究会 稲垣由夫 (富士フィルム)
 アンビエント技術研究会副主査 飯野裕明 (東京工業大学)
 アンビエント技術研究会副主査 宮本公明 (富士フィルム)
 アンビエント技術研究会・光機能性材料研究会 内田孝幸 (東京工芸大学)
 写真文化拡大部会・画像入出力部会 大川祐輔 (セイコーエプソン)
 広報委員会ホームページ担当 大川祐輔 (千葉大学)
 写真文化拡大 松下艶子 (ニコン)
 年次大会実行委員 田中里実 (日本大学)
 写真エキスパート講習会委員 吉野弘章 (東京工芸大学)
 科学写真研究会副主査 中竜大 (名古屋大学)

- 科学写真研究会 山下清司 (元富士フィルム)
科学写真研究会 河合 清 (富士フィルム)
- ・事務局長 (兼) 会勢拡大委員長 山岸 治
- 2) 役員研修会 (8月)
会長以下の役員が研修会を開催し、本学会の会勢拡大の具体的な進め方について議論した。
(2019年 (令和元年) 8月27日 (火) 富士フィルム東京ミッドタウン本社2階201B会議室)
- ・役員研修課題: 『会員増員計画Ⅱ』について
※会員増加に向けての課題, 施策, 実施状況の報告と議論を行う。
 - ・講演研究事業 (研究会・セミナー) での会員増員計画研究会・セミナー別の新規入会者検証状況
『写真文化遺産 (古写真) プロジェクト』活動 (案)
『写真学会シニア技術者ネットワーク』活動 (案)
『カメラ業界関係者基礎講座・写真家ワークフロー講座 (見直し)』
『科学写真研究会』
 - ・質疑・まとめ
以上の各課題に関する提案と役員での具体化に向けた討議を行った。
- 6-3 支部の運営に関する会議
- 1) 西部支部企画委員会
西部支部活動として西部支部会員向けのイベント企画に関する協議を行った。
- 6-4 各委員会
- 1) 役員等選考委員会
役員等の選考を行った。
- 2) 人事委員会
学会職員の勤務状況と処遇についての協議を行い、来年度の処遇を決定した。
- 3) 庶務委員会
平成29年度事業報告並びに平成30年度事業計画案の総会承認を得た。活動計画表, 組織系統図を更新した。2018年 (平成30年) 度事業報告案並びに2019年 (令和元年) 度事業計画案を作成し, 理事会承認を得た。
- 4) 財務委員会 (2回)
平成30年度決算報告並びに平成31年 (令和元年) 度予算案の総会承認を得た。平成31年 (令和元年) 度中間決算内容を審議し承認した。学会各事業活動の改善状況, 特に財務改善の検討を行った。平成31年 (令和元年) 度決算報告並びに令和2年度予算案を作成し, 理事会承認を得た。
- 5) 編集委員会 (4回)
学会誌の編集方針, 特集記事の企画検討, 「解説」, 「口絵」, 「写真のある美術館・博物館・資料館」などの著者選定を行った。投稿論文の勧誘を行い, 掲載論文数の増加を図った。英文論文誌 BSPIJ (BULLETIN OF THE SOCIETY OF PHOTOGRAPHY AND IMAGING OF JAPAN) を Web 版として発行した。
- 6) 技術委員会
本年度も引き続き, 部会長・研究会主査会議の議論を基に, 各部会・研究会にて研究会活動の活性化のための具体的活動に展開した。成果として, 年次大会, 秋季大会における発表の活性化と新規会員の獲得が図れた。また新たに「技術者紹介サービス」の導入を図り, 技術委員会所管 (委員長の指導下) の事務作業と位置付けて試行を開始した。重要課題においては代表理事会において議論し, 活動の方向づけを適宜実施した。
- 7) 写真文化拡大委員会
委員会の役割を実現できるようメンバーを決めた。
- 8) 企画実行委員会
企画担当副会長が, 代表理事会にて新規事業の企画ならび実行を検討し, 今年度は, 写真史研究会, と教育への写真応用研究会の主査・副主査の選任を具体的活動の協議を行った。
- 9) 国際交流委員会
- 画像関連学会連合会代議員会で, 画像電子学会・日本印刷学会・日本画像学会と共催で, 2019年合同年次大会での miniICAI (イメージング国際会議) を実施し, 2020年の ICAI2020 開催に向け, プリプログラム委員会での具体化検討を進めた。
- 10) 広報委員会
・ホームページ改革推進委員会では, 英文論文へのアクセス性や会員への情報提供のサービスの向上を意図した新ホームページを2019年6月から公開および切り替えを行った。新ホームページに合わせて新会員管理システムを立ち上げ, 会員管理と連動して, 会員利便性など会員向けサービスの向上を順次進めている。
- 11) 会勢拡大委員会
・役員研修課題: 『会員増員計画Ⅱ』に関する議論をベースに, 講演研究事業 (研究会・セミナー) での会員増員計画および CP+2019 の写真学会ブース展示での学会活動紹介 PR 活動, 大学・学生の会員増員計画を各担当研究会・委員会および編集委員会での活動を通して, 会員増員計画を目標に, 会勢拡大を図ることとした。会員増員計画の今年度末までの効果検証で, 計41名の入会者となった。
・賛助会員増員について, 技術者紹介サービスを生かして賛助会員獲得活動に結び付ける。
- 6-5 特務担当
- 1) 画像関連学会連合会
画像関連学会連合会代議員に代表理事2名 (中野会長, 加藤副会長) および山岸事務局長が幹事として参画して, 画像関連連合会合同秋季大会, 画像関連連合会合大会, 画像関連連合会国際化およびその他の連合会課題に関して, 討議を行い, 理事会承認の元に, 連合活動を推進した。
- 2) 科学技術振興機構
科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づいて, 昨年度に引き続き, 科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行った。
7. 会勢
本年度末 (2020年3月31日現在) における会員の異動状況は, 次の通りである。
- | | 本年度末
(2020年3月31日現在) | 前年度末
(2019年3月31日時点) | 増減 |
|------|------------------------|------------------------|-----|
| 正会員 | 673名 | 675名 | 2名減 |
| 賛助会員 | 37社 | 35社 | 2社増 |
| 購読会員 | 16社 | 17社 | 1社減 |
| 合計 | 726名 | 727名 | 1名減 |
| | | | 以上 |

【第2号議案】2019年（令和元年）度決算報告（案）
（P271 ページ参照）

【第3号議案】2020年（令和2年）度事業計画（案）

1. 基本方針（定款第4条）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による未曾有の影響への対応とこの機会に今後の学会活動の見直しを行う項を8）に追加する。

- 1) 事業収支改善のために研究講演事業、学会誌刊行事業、法人管理事業の確実な遂行により回復基調を継続的に実施できる事業計画の立案を行う。
- 2) 写真に関する基盤技術の深耕と基盤技術から更に次世代の画像情報分野への領域拡大の為に、①高度情報通信社会に適合する次世代の画像映像情報分野の技術としてのアンビエント技術研究会、光機能性材料研究会、②写真産業を支える画像情報技術としての画像入出力部会、③写真文化拡大のための技術として写真文化拡大部会の6部会に天体写真技術研究会と科学写真研究会および新規立上げの写真文化財研究会、リアリティー再現研究会、写真史研究会・教育への写真応用研究会を加えた部会・研究会活動を通して会員拡大を行う。
これらの技部会活動推進の為、年次大会・研究会・セミナー・学会誌刊行・電子広報の充実及び画像関連学会連合会での所属学会との連携強化と関連する工業会・協会との連携強化を目指す。
- 3) 会勢拡大＝会員増加策を研究会および実行委員会単位で課題化し、施策展開を行う。
- 4) 写真及び画像に関する技術領域を拡大し、研究成果の発表及び関連情報提供の為、写真学会誌の充実と学術図書の刊行を行う。
- 5) 写真学会100周年（2026年）記念事業企画を開始する。
- 6) 会員へのサービスを第一義としながら社会公益性の観点からも学会の運営を行う。
- 7) 以下のことを特に本年度の重要課題として位置付け、行動する。
 - ① 画像入出力部会、アンビエント画像部会、医用画像部会、画像保存部会、アンビエント技術部会、写真文化拡大部会の6つに再編された技術部会と各研究会とセミナー等の実行委員会を組織化して、調査・研究の充実化を図る。
 - ② 写真文化拡大委員会を組織化して、写真文化の裾野拡大施策の充実化を図る。
 - ③ 画像関連学会連合会合同秋季大会の実施と次年度合同年次大会の企画を行う。
 - ④ 各技術部会での新規技術領域の調査・研究の充実化を図る。
 - ⑤ 写真好きの写真愛好者を対象にした、写真知識・写真文化の会勢拡大を図る。
 - ⑥ 学会誌の充実の為、英文論文誌の発行及び投稿数の拡大を図る施策を検討する。
 - ⑦ ホームページおよび会員管理システムでの会員向け情報発信と会員サービスの向上を図る。
- 8) 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対応した学会活動の見直しと施策検討の年度とする。
 - ① 理事会、代表理事会、研究会、委員会のWEB会議化
 - ② 講演研究事業の実施スケジュールの見直しとバーチャル（WEB）大会・研究会のケーススタディ検討。
 - ③ 学会活動の経費削減の検討と実施。
 - ④ 学会誌刊行事業に関して、今後の会員向け情報発信の総見直しの検討を行う。

2. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第5条（1））

2-1 学会誌の刊行

- 1) 学会誌を年間4冊発行する。
- 2) 年次大会や秋季研究報告会の要旨集を学会誌に掲載し発行する。
- 3) 論文投稿を積極的に勧誘し、親切な審査により質の高い論文を

数多く掲載する。あわせて投稿料収入の増加を図る。

2-2 英文論文誌「Bulletin of the Society of Photography and Imaging of Japan」の刊行

- 1) 6, 12月発行予定の英文の論文誌をweb誌として発行し、論文の投稿を積極的に呼びかける。
- 2) 英文誌に掲載された論文の題目や著者を分野別に整理した上で、画像4学会の会員に電子メールでお知らせする。
3. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））
- 3-1 研究発表会、講演会などの実施
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による中止または延期および研究会・実行委員会開催状況
 - 1) CP+2020日本写真学会展示（2020年2月27日-3月1日パシフィコ横浜）は開催中止となった。
 - 2) アンビエント技術研究会実行委員会（2020年2月26日）web会議を行った。
 - 3) 印刷技術協会・写真学会共催プリントセミナー（2020年3月3日印刷技術協会）写真学会参加者は無し。
 - 4) 第39回「写真好き」の為の定例講演会（2020年3月12日キャノンギャラリー）は延期。
 - 5) 第8回天体写真技術研究会（2020年3月13日イマジカ編集現場見学）は延期。
 - 6) 第40回写真好きの為の定例講演会（2020年4月予定 オリンパス本社/瑞光堂）は延期。
 - 7) 第9回天体写真研究会（時期未定 オリンパス&キャノン）は延期。
 - 8) 連合会第7回春季大会（2020年6月3日-5日 京都工芸繊維大学）中止。予稿集（電子版）は発行し、応募論文は投稿実績とする。
 - 9) PHOTONEXT2020技術アカデミー（2020年6月9日 パシフィコ横浜）は、2020年10月1日 パシフィコ横浜）に延期とする。以下は、年度計画で予定の研究発表会、講演会などで、新型コロナウイルス感染状況をから開催可否と実施方法などを検討する。
 - 10) デジタルアーカイブワークショップ（2020年7月16日 インフォマージュ）予定
 - 11) リアリティー研究会セミナー（2020年8月下旬 東京工芸大学）予定
 - 12) PHOTONEXT2020技術アカデミー（2020年10月1日 パシフィコ横浜）
 - 13) カメラ技術セミナー（2020年10月23日 東京都写真美術館）
 - 14) 連合会 ICAI2020（2020年11月2日-6日 幕張メッセ）一年延期、ICAI2021として来秋実施予定。
 - 15) 写真学会秋季研究発表会（仮称）（2020年秋）検討
 - 16) 画像保尊セミナー（2020年秋～冬 東京都写真美術館）予定
 - 17) 光機能性材料セミナー（2020年11月下旬 富士フィルム本社）予定
 - 18) 「写真好き」のための工場見学/定例講演会（2020年度内に5回予定 詳細未定）予定
 - 19) 第7回アンビエント技術セミナー（2020年12月：富士フィルム本社）予定
 - 20) 西部支部講演会（2020年度内；京都工芸繊維大学）予定
 - 21) アンビエント技術研究会（2020年度2回予定）
 - 22) 科学写真研究会セミナー（2020年、詳細未定）
 - 23) プリント技術セミナー（2020年、詳細未定）
- 3-2 新規事業
2019年度役員研修会のテーマ『会員増員計画』についての議論から、会員増加に向けての課題、施策を議論する中から、会員増に結びつく、写真文化拡大委員会や新規研究会（技術講座）の立上げと既存事業の充実を通して事業の具体化を推進する。
 (1) 写真文化拡大委員会は、写真文化の啓蒙・教育活動全体を統括し、技術委員会の個々の技術技部会・研究会と連携して活動する。
 (2) 研究分野拡大のため、一昨年度に活動開始した天体写真技

術研究会や科学写真研究会の充実発展を進めると共に、昨年度に新設した「写真史研究会」と「教育への写真応用研究会」の活動の具体化を行う。

- (3) 「写真」の基礎的な、理論や技術を学び、写真の楽しさを感じて、写真作品をより多くの人に見せる楽しさや、自身の写真の世界を広げる知識習得・実習を受講し、「写真」の文化をより広く普及して行く人材育成の為に『カメラ業界関係者基礎講座・写真家ワークフロー講座』を新規に行う。
- (4) 最先端画像技術を取り入れる研究会創設が必要で、技術委員会で具体化に向けた調査や核となる先生の探索などを検討する。
- (5) アンビエント技術部会（アンビエント技術研究会／光機能性材料研究会）
 - ・研究会の活動内容と写真学会の活動状況に会員特典などを入れたPR文書（フライヤー）を作り会員化勧誘活動に使用する。この時、渡す相手と渡し方がポイントとなるので検討する。
- (6) 科学写真研究会
 - ・センサーや分析・解析技術を主にしたミューオングラフィックをベースに原子核乾板関係主要メンバーにインタビューして、研究会への期待する内容と協力できる内容の検討を行う。また固体飛跡検出器研究会に協賛し、原子核乾板技術の拡大発展に協力する。
- (7) 天体写真技術研究会
 - ・天体写真は裾野が広く、会員候補は多い。研究会活動の内容も充実しており、今後も継続する。
- (8) リアリティ研究会セミナー（2020年8月下旬 東京工芸大学）予定（新規提案）
- (9) 大学関係者の会員増
 - ・各大学への投稿勧誘文書を作成し会長名で発行する様検討する。
 - ・DOI 所得のための経費見直しを行うと共に、審査・投稿料軽減の価格を検討する。
 - ・年次大会・秋季大会や講演会・セミナー参加者への投稿勧誘策を検討する。

4. 研究及び調査の実施（定款第5条（3））

4.1 技術委員会専門研究会活動の実施

技術委員会の中に本学会の主要科学技術分野別の部会・研究会を設け、以下の活動を行うことにより、本学会会員の研究の発展と資質の向上並びに会員の増強をはかる。

特に、本学会が取り組む技術分野の拡大・充実化並びに写真で培った基盤技術の深耕・展開と写真愛好家層への学会活動の充実をはかるために、新設した写真史研究会、教育への写真応用研究会の活動を写真文化拡大委員会と協働して活性化する。

【画像入出力部会】

部会の研究会活動を活性化する。

- ・画像入出力研究会：年次大会の企画・運営に参加する。
- ・カメラ技術研究会：年7回の研究会を開催する。「カメラ技術セミナー」を企画・運営する。学会誌の「2019年のカメラ」、「写真の進歩」などの執筆に協力する。年次大会の運営に協力する。
- ・表現と技術研究会：研究内容の検討を行う。

【アンビエント画像部会】

- ・アンビエント画像研究会：年次大会・秋季大会の企画・運営に参加する。

【医用画像部会】

- ・医用画像研究会：他の医用画像関係の学会とともにメディカルイメージング連合フォーラムを共催する。
本フォーラムは医用画像に関連するイメージサイエンス・画像情報理論・像形成理論、人体その他の生体の画像の生成理論と実現技術に関する学会。

【画像保存部会】

下記、2つの研究会とともに画像保存への取り組みを推進するとともに、学会HP、学会誌にて活動を広く周知する。

- ・画像保存研究会：2020年度画像保存セミナーを企画、実行する。勉強会・ワークショップ実施の準備を行う。
- ・デジタルアーカイブ研究会
デジタル画像の保存とその技術についての勉強会を実施し、急速に進展するデジタル分野の情報を収集、発信する。カラーマネージメント関連のワークショップを7月開催を予定している。
画像保存研究会と協力して、2020年度の画像保存セミナーを企画、実行する。
- ・「文化財写真の保存に関するガイドライン」の改訂版を発行する。

【アンビエント技術部会】

光機能材料研究会とアンビエント技術研究会の両輪で、材料系研究における活動基盤づくりを進め、学会内外への研究会活動を展開と其々の講演研究事業の実施と年次大会および秋季大会においてアンビエント技術セッションを企画する。

- ・アンビエント技術研究会
会員内外の参加を目的とした研究会の開催を行う。（2回開催予定。）第7回アンビエント技術セミナーを企画開催する。研究会の成果を学会誌に特集企画する。
- ・光機能性材料研究会
第17回光機能性材料セミナーを企画開催する。研究会の成果を学会誌に特集企画する。

【科学写真研究会】

原子核乾板技術分野を核に科学写真系研究における活動基盤づくりを進め、学会内外への研究会活動の展開とセミナー等の講演研究事業の実施を企画する。年次大会、秋季大会および国際学会での発表、学会誌への投稿を関係者に促す。固体飛跡検出器研究会との連携を進め、研究発表会に協賛し、その他の協力事業を推し進める。銀塩写真技術の専門家と原子核乾板利用者との技術交流を深める発表会・講演会等の企画を行う。

【天体写真研究会】

天体写真技術研究会は、学会員向けの「画像技術の原理を知って作品作りのレベルアップにつなげてもらうことを目指した研究会」を、毎年2回程度実施している。今年度は、昨年実施した最新TV技術動向関連の話の掘り下げと、最近の撮影技術動向に関する話を取り上げる方向で、講師探し・講演内容の詰め・研究会の実施を目指していく。

【写真史研究会】

日本写真学会年次大会への写真史・技術史研究発表、並びに、学会誌への論文投稿誘致を推進する。「写真好き」のための定例講演会の企画へ協力していく。

【教育への写真応用研究会】

教育、福祉、医療など幅広い分野で写真を利用した教育の実践と成果を発信し、普及活動を行う。また、ワークショップの開催についてのアドバイスや、講師派遣などの要望に応える。

【リアリティ再現研究会】

リアリティ研究会セミナー（2020年8月下旬 東京工芸大学）予定している。

【進歩レビュー分科会】：

専門分野別の年次レビュー「写真の進歩」作成を行い、学会誌上で報告し、学会ホームページに掲載する。

4.2 写真文化拡大委員会活動の実施

会員が気軽に写真表現、写真撮影の工夫などを学び、発表できる場を提供し、広く社会に写真文化の啓蒙および教育を目的に写真文化拡大委員会を創設し、写真文化拡大部会の既存の委員会と新設した委員会などの傘下の各組織は、以下のような活動を行う。

【「写真好き」のための定例講演会実行委員会】

- ・写真文化拡大委員会の方針に則り、2012年から続く「写真好き」のための定例講演会38回の参加者および新規対象者に興味を持って頂ける企画の充実化を図る。5回/年の実施を目標にする。

【PHOTONEXT 技術アカデミー実行委員会】

- ・カメラシステムの最新技術紹介だけでなく技術進化に伴うカメラの現状を総括するような講演を企画する。あわせて、デジタル画像を扱う上での基礎知識や出力装置の活用法、ドローンを使った撮影領域の拡大や活用法、デジタル時代の銀塩感光材料の活用など、新しい映像表現や写真の楽しみ方のノウハウを幅広いユーザー層に提供できるような講演を企画する。共催の写真感光材料工業会や後援の(株)プロメディアと連携して講演プログラムの充実を図る。

【CP+ 実行委員会】

- ・CIPA との関係から、日本写真学会単独ブースでの学会広報展示と学会活動のPRを行い、新規会員獲得の場とする。⇒CP+2020中止となり、来年度同様の企画を検討する。

【写真技術セミナー実行委員会(写真好きのためのワークショップ)】

- ・写真文化拡大委員会の方針に則り、昨年度実施した「写真」の基礎的な、理論や技術を学び、写真の楽しさを感じていただき、写真作品をより多くの人に見せる楽しさや、自身の写真の世界を広げる実習を通して、『写真のエキスパート』となって頂き、講習会で得たことをベースに、「写真」の文化をより広く、普及して行く人材育成を目的にした「写真のエキスパートになろう ～プリントコース～」として、「写真を作る」主体の写真好きのためのワークショップに「写真を観る」ことを加えた講習会を実施した。今年度も、企画実施を行う。「写真のエキスパートになろう ～プリントコース～」の第二弾の企画・実施を行う。

【新規プリンティング技術研究会】

- ・デジタル印刷における最新の写真表現技術動向を基礎から応用まで解説するプリント技術セミナーを企画実施する。

【写真文化財(古写真)研究会】

- ・文化財写真(乾板)の超精密デジタル画像復元技術に関する論文の投稿と、文化財写真(世界遺産)の超精密デジタル画像復元に関する材料・システムの研究計画の第1年次の実態調査をターゲットを絞って行う。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款第5条(4))

5-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施

- 1) 画像関連学会連合会(日本画像・日本印刷・画像電子・日本写真の各学会)代議員会を引き続き推進する。今年度の計画していた第7回合同春季大会は新型コロナウイルス感染症防止の為に、中止としICAI2020の来年度への延期を決定した。今年度実施の連合会の合同活動予定は、無くなったが、来年度の合同開催課題の実行委員会は、立ち上げを行う。
- 2) デジタルアーカイブワークショップ(2020年7月16日 インフォーマージュ、日本写真芸術学会、文化財保存修復学会等11学協会協賛、東京都写真美術館協力)
- 3) リアリティ研究会セミナー(2020年8月下旬 東京工芸大学、画像関連学会協賛)
- 4) PHOTONEXT 技術アカデミー(2020年10月1日、パシフィコ横浜、写真感光材料工業会共催、写真関連諸団体協賛)
- 5) カメラ技術セミナー(2020年10月23日 東京都写真美術館、照明学会、電気学会、日本物理学会、日本機械学会等14学協会協賛)
- 6) 写真学会秋季研究発表会(仮称)(2020年秋、京都工芸繊維大・千葉大学・東京工芸大学・東京工業大学等協賛)
- 16) 画像保尊セミナー(2020年秋～冬 東京都写真美術館) 予定
- 17) 光機能性材料セミナー(2020年11月下旬 富士フィルム本社) 予定
- 18) 「写真好き」のための工場見学/定例講演会(2020年度内に5回予定 詳細未定) 予定
- 19) 第7回アンビエント技術セミナー(2020年12月:富士フィル

ム本社) 予定

- 20) 西部支部講演会(2020年度内:京都工芸繊維大学) 予定
 - 3) 第17回光機能性材料セミナー(2020年11月、富士フィルム本社、日本化学会・応用物理学会・高分子学会他20学協会協賛)
 - 4) アンビエント技術セミナー(2020年12月予定:富士フィルム本社、日本化学会・応用物理学会・高分子学会他20学協会協賛)
 - 6) 画像保存セミナー(2020年11月予定 東京都写真美術館ホール、日本写真芸術学会、文化財保存修復学会等11学協会協賛、東京都写真美術館協力)
 - 7) 科学写真研究会セミナー(2020年、詳細未定、名古屋大学・東邦大学・千葉大学他)
 - 8) プリント技術セミナー(2020年、詳細未定、日本印刷技術協会共催)
 - 9) 2020年度「写真のエキスパートになろう!」講習会(詳細未定、カメラ映像機器工業会・写真感光材料工業会協力)
 - 10) 第57回アイソトープ・放射線研究発表会(2020年7月7日～9日、東京大学、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会や他学会と協賛)
 - 11) 第4回天体写真技術セミナー(詳細不明(公社)日本天文学会、国立天文台等9団体協賛、(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会 協力)
 - 12) メディカルイメージング連合フォーラム2020(詳細不明、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会共催)
 - 13) 第35回固体飛跡検出器研究会(詳細未定、固体飛跡検出器研究会主催、日本写真学会共催または協賛)
- #### 5-2 国際交流に関する事項
- 1) 2020年 ICAI(The International Conference on Advanced Imaging(ICAI2020))は新型コロナウイルス感染防止の為に、来年度の11月に延期となった。
 - 2) 2021年 ICAI(The International Conference on Advanced Imaging(ICAI2020))のプレプログラム委員会を設立し、具体化検討を行う。
- #### 6. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款第5条(5))
- 6-1 2020年度(令和2年)学会賞(功績賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞)の授与。
 - 6-2 2020年度(令和2年)コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金の授与
 - 6-3 2020年度(令和2年)小島裕研究奨励金の授与
 - 6-4 2021年度(令和3年)学会賞(名誉賞、功績賞、功労賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞、会長表彰)受賞者の選考
 - 6-5 2021年度(令和3年)コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考
 - 6-6 2021年度(令和3年)小島裕研究奨励金交付対象者の選考
 - 6-7 名誉会員の推薦、永年会員の認証
 - 6-8 フェローの推薦と認定
 7. その他目的を達するために必要な事項(定款第5条(6))
 - 7-1 運営に関する会議
第9回社員総会(令和2年5月19日)、理事会(年7回)、役員研修会(年1回)、学会賞選考委員会(年1回)、代表理事会(年10回)、財務委員会(年2回)および庶務委員会、人事委員会(適時)、その他。
 - 7-2 編集委員会(年4回)
学会誌の編集方針、内容の更新、特集・各種記事の企画、論文審査体制、著作権の整備などの検討を行う。平常業務は電子メールを活用し、委員間の意見交換を随時行う。会員からの学会誌に関する意見聴取につとめる。学会誌の電子ジャーナル化作業を引き続き行い、同時に投稿を呼びかける。英文論文誌の掲載論文数を増加させるための方法を検討する。
 - 7-3 技術委員会
定期的に各技術部会・研究会の代表者が集まり(電子メールによる会議含む)、研究会の活性化及び活動状況等の情報交換を行う。又、研究会、講演会、セミナーなどを適宜開催し、広く

本学会内外に活動状況を提示することにより、本学会における当該科学技術分野の向上を図る。さらに年次大会、秋季大会でのプログラム委員活動を通じて研究発表を活性化し、技術分野の偏在の解消を引き続き推進する。

最新の技術・開発動向を調査し、既存研究会での課題検討や新規領域に対応する新規研究会化などを検討する。また「技術者紹介サービス」を通して、当会の技術資産である賛助会員・個人会員の知識・経験を相互に生かす支援を行う。

7-4 写真文化拡大委員会

写真学会と一般の写真愛好家、写真関連大学を中心とした学生との交流を中心としつつ、カメラ好きの対象を広げていくべく活動を行っていく。委員会所属の研究会活動と講演会、見学会およびワークショップなど専門家以外の方々を対象にした企画を行い、参加者に写真学会の存在をアピールできる活動を行ってゆく。写真学会の専門性を活かし、一般人との垣根を低くする活動を行う。

7-5 企画実行委員会

新規技術領域の講演研究事業の企画ならびに実行推進にあたるため、会長、企画担当副会長、技術担当副会長の代表理事からなる当委員会で、具体策の検討を図る。又、写真文化拡大活動を画像入出力部会・写真文化拡大部会が連携して進めると共に、関連学協会との連携強化を検討と実行推進を図る。

7-6 国際交流委員会

2020年 ICAI (The International Conference on Advanced Imaging (ICAI2020)) のプレプログラム委員会および今年立ち上げの ICAI2020 連合会実行委員会と日本写真学会 ICAI トラック実行委員会で具体化を行う。

7-7 広報委員会

ホームページの改善および会員へのタイムリーな情報の発信を継続的に行う。英文論文掲載の利便性などの課題に対応し、ホームページの更新を行う。また、写真関係のイベント等を通じ、一般の方々へ本会の紹介を積極的に行う。

7-8 会勢拡大委員会

会勢拡大施策の企画ならびに実行推進にあたるため、会長、企画担当副会長、技術担当副会長の代表理事からなる当委員会で、学会活動の通して会勢拡大の為の具体策の検討を図る。各種講演会、セミナーでの正会員勧誘に加え、役員主導の勧誘活動を行う。又、賛助会員についても、カメラ関連、画像関連など、従来非会員であった分野にも役員主導で積極的に働きかける。また、新規技術部会、研究会のメンバー拡大を図り、部会・研究会の活性化を図る。

7-9 画像関連学会連合会関連委員会

画像電子学会、日本印刷学会、日本画像学会と日本写真学会の会長・副会長からなる2020年度の代議員会を適宜実施し、4学会協同事業として、連合会春季大会実行委員会が主体の2020年画像関連学会連合会春季大会(2020年6月3日～5日、京都工芸繊維大学60周年記念会館他)とICAI実行委員会主体のICAI2020(International Conference on Advanced Imaging 2020, 2020年11月2日～6日 千葉 幕張メッセ)の具体化を検討してきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止・延期となったため、2021年度春季大会およびICAI2021(International Conference on Advanced Imaging 2021, 2021年11月 千葉 幕張メッセ)に向け、それぞれの実行委員会で具体化を行う。

7-10 科学技術振興機構電子アーカイブ事業

科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づく例年の作業として、科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行う。

以上

【第4号議案】2020年(令和2年)度収支予算(案) (P273 ページ参照)

【第5号議案】2020年(令和2年)度役員等の選任(案)

1-1 新役員候補者(敬称略)

1-1 新役員候補者(敬称略)

1) 理事 11名

今泉 祥子(千葉大学) 久下 謙一(千葉大学)
甲田 謙一(日本大学) 白石 幸英(市立山口東京理科大学)
鈴木 博文(ニコン) 砂川 智英(三菱製紙)
清野 晶宏(IMAGICA Lab.) 山口 孝子(東京写真美術館)
山田 勝実(東京工芸大学) 吉田 哲夫(名古屋大学)
吉田 英明(オリンパス)

2) 監事 1名

高田 俊二(千葉大学)

1-2 残留役員(敬称略)

1) 理事 9名

飯野 裕明(東京工業大学) 大関 勝久(名古屋大学)
加藤 隆志(富士フィルム) 郡司 秀明(日本印刷技術協会)
中野 寧(コニカミノルタ) 西澤 敦(セイコーエプソン)
蒔田 剛(キヤノン) 松澤 良紀(オリンパス)
半那 純一(東京工業大学)

2) 監事 1名

豊田 堅二(日本大学)

参考

2. 令和2年度評議員

1) 令和2年度委嘱 9名

阿部 隆夫(信州大学) 有馬 登(三菱製紙)
杉本 繁実(オリンパス) 鈴木 邦夫(三菱製紙)
谷 忠昭(日本写真学会フェロー) 三谷 公二(日本放送協会放送技術研究所)
村上 直之(ニコン) 山田 元茂(元三菱製紙)
吉野 弘章(東京工芸大学)

2) 残留評議員 14名

大野 隆司(千葉大学) 五十嵐 人志(セイコーエプソン)(新任)
内田 雅文(コニカミノルタ)(新任) 川崎 三津夫(京都大学)(新任)
久保田 敏弘(京都工芸繊維大学) 後藤 哲朗(ニコン)
古森 重隆(富士フィルムホールディングス) 酒井 克之(東京工芸大学)(新任)
島田 文生(コニカミノルタ科学振興財団) 高田 俊二(千葉大学)(新任)
戸倉 剛(キヤノン)(新任) 原 直久(日本大学)
藤嶋 昭(東京理科大) 三宅 洋一(東京工芸大学)

3. 幹事

本部: 18名

稲垣 由夫(元富士フィルム) 池側 隆之(京都工芸繊維大学)
岩本 康平(元セイコーエプソン) 内田 孝幸(東京工芸大学)
大川 泰輔(セイコーエプソン) 大川 裕輔(千葉大学)
河合 清(富士フィルム) 桑山 哲郎(千葉大学)
鈴木 敬子(神奈川県近代美術館) 高橋 則英(日本大学)
田中 里実(日本大学) 津村 徳道(千葉大学)
中 竜大(名古屋大学) 西垣 仁美(日本大学)
松下 艶子(ニコン) 宮本 公明(元富士フィルム)
山下 清司(元富士フィルム) 水口 淳(元ソニー)

西部支部: 8名

池側 隆之(京都工芸繊維大学) 白石 幸英(市立山口東京理科大学)
岩崎 仁(元京都工芸繊維大学) 佐藤 慈(九州産業大学)
澤田 卓也(かつらぎ町教育委員会) 安藤 千穂子(京都工芸繊維大学)

4. 中川 邦昭 (ナカガワフォトギャラリー) 植松 道治 (パナソニック)
 フェロー
 金田 英治 (元副会長) 小林 裕幸 (元会長, 千葉大学名誉教授)
 谷 忠昭 (元会長, 元富士フイルム) 三宅 洋一 (元会長, 千葉
 大学名誉教授)
 岩崎 仁 (元西部支部長, 元京都工芸繊維大学)

【第6号議案】会員の除名

定款第10条により, 21名を除名とする。

以上

【第2号議案】2019年(令和元年)度決算報告(案)

貸借対照表
 令和2年3月31日現在

				(単位:円)		
科 目				当年度	前年度	増 減
I 資産の部						
1. 流動資産						
	現金預金			7,138,031	12,187,059	△ 5,049,028
	未 収 会 費 金			3,207,750	2,785,500	422,250
	未 収 会 費 金			332,573	417,450	△ 84,877
	前 払 金			0	64,000	△ 64,000
	流動資産合計			10,678,354	15,454,009	△ 4,775,655
2. 固定資産						
(1) 基本財産						
	定 期 預 金			27,000,000	27,000,000	0
	基本財産合計			27,000,000	27,000,000	0
(2) 特定資産						
	普 通 預 金			2,500,542	3,002,036	△ 501,494
	特定資産合計			2,500,542	3,002,036	△ 501,494
(3) その他固定資産						
	電 話 加 入 権			74,984	74,984	0
	その他固定資産合計			74,984	74,984	0
	固定資産合計			29,575,526	30,077,020	△ 501,494
	資産合計			40,253,880	45,531,029	△ 5,277,149
II 負債の部						
1. 流動負債						
	未 払 金			833,505	2,158,900	△ 1,325,395
	預 り 金			71,525	111,291	△ 39,766
	未 払 費 用			28,720	214,804	△ 186,084
	前 受 会 費 金			901,500	4,182,500	△ 3,281,000
	仮 受 金			60,496	60,496	0
	流動負債合計			1,895,746	6,727,991	△ 4,832,245
	負債合計			1,895,746	6,727,991	△ 4,832,245
III 正味財産の部						
1. 指定正味財産						
	指定正味財産合計			0	0	0
	(うち特定資産への充当額)			(3,503,829)	(3,503,829)	(0)
2. 一般正味財産						
	一般正味財産合計			38,358,134	38,803,038	△ 444,904
	(うち基本財産への充当額)			(27,000,000)	(27,000,000)	(0)
	正味財産合計			38,358,134	38,803,038	△ 444,904
	負債及び正味財産合計			40,253,880	45,531,029	△ 5,277,149

正味財産増減計算書
平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

予算対比正味財産増減計算書
平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

科 目	当年度	前年度	増 減
(単位:円)			
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[593]	[5,423]	[△ 4,830]
基本財産受取利息	593	5,423	△ 4,830
受取会費	[9,447,000]	[9,455,500]	[△ 8,500]
正会員受取会費	4,875,500	4,926,500	△ 51,000
賛助会員受取会費	4,571,500	4,529,000	△ 42,500
事業収入	[3,327,907]	[4,329,100]	[△ 1,001,193]
講演・研究事業収入	3,327,907	4,329,100	△ 1,001,193
受取寄付金	[600,000]	[600,000]	[0]
受取客付金	600,000	600,000	0
雑収入	[963,769]	[852,807]	[110,962]
受取利息	1,366	4,354	△ 2,988
広告料	173,000	162,000	△ 11,000
別刷・投稿料	316,000	154,000	△ 162,000
雑収入	473,403	532,453	△ 59,050
経常収益計	14,339,269	15,242,830	△ 903,561
(2) 経常費用			
事業費	[6,359,979]	[7,152,922]	[△ 792,943]
学会誌等刊行事業費	(2,878,800)	(2,688,294)	(190,506)
交際費	30,000	29,000	1,000
印刷製本費	2,845,980	2,572,436	△ 273,544
雑費	2,820	16,608	△ 13,788
審査校正費	0	70,250	△ 70,250
講演研究事業費(1)	(1,994,167)	(2,943,557)	(949,390)
給料	134,000	114,000	△ 20,000
旅費	193,145	654,395	△ 461,250
会場費	626,150	347,888	△ 278,262
通信運搬費	21,499	20,686	813
会議費	162,171	199,670	△ 37,499
消耗品費	2,299	1,782	517
諸謝金	367,516	423,201	△ 55,685
印刷製本費	209,730	229,284	△ 19,554
雑費	141,526	221,592	△ 80,066
参加者会費	136,131	731,059	△ 594,928
奨励助成事業	(1,082,455)	(1,116,493)	(34,038)
奨励助成金	1,082,455	1,116,493	△ 34,038
給料	310,061	310,061	0
旅費	52,568	52,568	0
福利厚生費	0	21	△ 21
管理費	[8,424,194]	[7,858,297]	[565,897]
給料	(4,139,517)	(4,387,836)	(248,319)
事務員給料	4,139,517	4,387,836	△ 248,319
会費	228,000	214,000	14,000
旅費	(789,762)	(746,802)	(42,960)
事務員交通費	762,482	746,802	15,680
役員交通費	27,280	0	27,280
通信運搬費	1,354,256	410,260	△ 943,996
租税公課	70,012	71,241	△ 1,229
会費	0	1,770	△ 1,770
消耗品費	251,058	244,583	△ 6,475

科 目	予算額	決算額	差 異
(単位:円)			
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[5,700]	[593]	[5,107]
基本財産受取利息	5,700	593	5,107
受取会費	[9,838,417]	[9,447,000]	[391,417]
正会員受取会費	5,230,417	4,875,500	354,917
賛助会員受取会費	4,608,000	4,571,500	36,500
事業収入	[4,493,000]	[3,327,907]	[1,165,093]
講演・研究事業収入	4,493,000	3,327,907	1,165,093
受取寄付金	[1,379,026]	[600,000]	[779,026]
受取客付金	1,379,026	600,000	779,026
雑収入	[1,268,371]	[963,769]	[304,602]
受取利息	2,115	1,366	749
広告料	388,800	173,000	△ 215,800
別刷・投稿料	220,400	316,000	△ 95,600
雑収入	657,056	473,403	△ 183,653
経常収益計	16,984,514	14,339,269	2,645,245
(2) 経常費用			
事業費	[8,517,000]	[6,359,979]	[2,157,021]
学会誌等刊行事業費	(3,720,000)	(2,878,800)	(841,200)
交際費	10,000	30,000	△ 20,000
印刷製本費	3,000,000	2,845,980	154,020
雑費	40,000	30,000	10,000
審査校正費	0	2,820	△ 2,820
J - S T A G E 編集料	250,000	0	250,000
調査校正料	20,000	0	20,000
講演研究事業費(1)	(3,127,000)	(1,994,167)	(1,132,833)
給料	179,000	134,000	△ 45,000
旅費	363,000	193,145	△ 169,855
会場費	378,000	626,150	△ 248,150
通信運搬費	83,000	21,499	△ 61,501
会議費	144,000	162,171	△ 18,171
消耗品費	20,000	2,299	△ 17,701
諸謝金	733,000	367,516	△ 365,484
印刷製本費	461,000	209,730	△ 251,270
雑費	27,000	141,526	△ 114,526
参加者会費	739,000	136,131	△ 602,869
講演研究事業費(2)	(620,000)	(0)	(620,000)
旅費	30,000	0	△ 30,000
通信運搬費	480,000	0	△ 480,000
諸謝金	100,000	0	△ 100,000
雑費	10,000	0	△ 10,000
奨励助成事業	(1,050,000)	(1,082,455)	(32,455)
奨励助成金	1,050,000	1,082,455	△ 32,455
給料	0	310,061	△ 310,061
旅費	0	52,568	△ 52,568
福利厚生費	0	41,928	△ 41,928
管理費	[7,670,721]	[8,424,194]	[753,473]
給料	(4,508,090)	(4,139,517)	(368,573)
事務員給料	4,508,090	4,139,517	△ 368,573

科 目	当年度	前年度	増 減
福利厚生費	(528,136)	(593,343)	(65,207)
法定福利費	528,136	593,343	△ 65,207
貸借料	142,152	539,968	△ 397,816
諸謝金	554,400	550,800	3,600
事務所維持管理費	200,000	0	200,000
雑費	166,901	97,694	△ 69,207
経常費用計	14,784,173	15,011,219	△ 227,046
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 444,904	231,611	△ 676,515
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 444,904	231,611	△ 676,515
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 444,904	231,611	△ 676,515
一般正味財産期首残高	38,803,038	38,571,427	△ 231,611
一般正味財産期末残高	38,358,134	38,803,038	△ 444,904
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	38,358,134	38,803,038	△ 444,904

科 目	予算額	決算額	差 異
会費	353,000	228,000	△ 125,000
旅費	(800,000)	(789,762)	(10,238)
事務員交通費	700,000	762,482	△ 62,482
役員交通費	100,000	27,280	△ 72,720
維持修繕費	8,640	0	△ 8,640
通信運搬費	250,000	1,354,256	△ 1,104,256
租税公課	74,000	70,012	△ 3,988
消耗品費	150,000	251,058	△ 101,058
福利厚生費	(487,023)	(528,136)	(41,113)
法定福利費	487,023	528,136	△ 41,113
貸借料	139,968	142,152	△ 2,184
諸謝金	600,000	554,400	△ 45,600
事務所維持管理費	200,000	200,000	0
雑費	100,000	166,901	△ 66,901
経常費用計	16,187,721	14,784,173	1,403,548
評価損益等調整前当期経常増減額	796,793	△ 444,904	1,241,697
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	796,793	△ 444,904	1,241,697
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	796,793	△ 444,904	1,241,697
一般正味財産期首残高	0	38,803,038	△ 38,803,038
一般正味財産期末残高	796,793	38,358,134	△ 37,561,341
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	796,793	38,358,134	△ 37,561,341

一般社団法人 日本写真学会
会長 中野 寧 殿

私たち監事は、当法人の平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までの令和元年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 9 条第 1 項（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 1 9 7 条において用する同法第 9 9 条第 1 項）及び一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 3 6 条及び第 4 5 条（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 6 4 条において準用する同規則第 3 6 条及び第 4 5 条）の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等と閲覧し、当協会の主たる事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について監査しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当協会の状況を正しくしているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な実事は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当協会の財産及び損益の状況を重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和 2 年 5 月 1 4 日

監事 高田 俊二



監事 豊田 堅二



【第 4 号議案】 2020 年（令和 2 年）度収支予算（案）

【コロナ最悪ケース折込二次】

収支予算書

令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[5,423]	[5,700]	[△ 277]
基本財産受取利息	5,423	5,700	△ 277
受取寄附金	[9,519,500]	[9,838,417]	[△ 318,917]
正会員受取会費	4,926,500	5,230,417	△ 303,917
賛助会員受取会費	4,593,000	4,608,000	△ 15,000
事業収入	[0]	[4,493,000]	[△ 4,493,000]
講演・研究事業収入	0	4,493,000	△ 4,493,000
受取寄付金	[600,000]	[1,379,026]	[△ 779,026]
受取寄附金	600,000	1,379,026	△ 779,026
雑収入	[852,805]	[1,268,371]	[△ 415,566]
受取利息	4,352	2,115	△ 2,237
広告掲載料	162,000	388,800	△ 226,800
別刷投稿料	154,000	220,400	△ 66,400
雑収入	532,453	657,056	△ 124,603
経常収益計	10,977,728	16,984,514	△ 6,006,786
(2) 経常費用			
事業費	[5,291,050]	[8,517,000]	[△ 3,225,950]
学会誌等刊行事業費	(3,720,000)	(3,720,000)	(0)
事務局員給与	10,000	0	△ 10,000
学会誌発送費	300,000	300,000	0
交通費	40,000	40,000	0
印刷製本費	3,000,000	3,000,000	0
雑費	20,000	20,000	0
原稿編集費	80,000	80,000	0
J-S-T-A-G-E 編集費	250,000	250,000	0
審査校正料	20,000	20,000	0
講演研究事業費(1)	(0)	(3,127,000)	(△ 3,127,000)
給料手当	0	179,000	△ 179,000
旅費交通費	0	363,000	△ 363,000
会場費	0	378,000	△ 378,000
通信運搬費	0	83,000	△ 83,000
会議費	0	144,000	△ 144,000
消耗品費	0	20,000	△ 20,000
諸謝金	0	733,000	△ 733,000
印刷製本費	0	461,000	△ 461,000
雑費	0	27,000	△ 27,000
参加者会合費	0	739,000	△ 739,000
講演研究事業費(2)	(50,000)	(620,000)	(△ 570,000)
旅費交通費	0	30,000	△ 30,000
通信運搬費	50,000	480,000	△ 430,000
諸謝金	0	100,000	△ 100,000
雑費	0	10,000	△ 10,000
奨励助成事業金	(1,521,050)	(1,050,000)	(△ 471,050)
奨励助成事業金	1,521,050	1,050,000	△ 471,050
管理費	[7,155,913]	[7,670,721]	[△ 514,808]
給料手当	(4,208,090)	(4,508,090)	(△ 300,000)
事務局員給料	4,208,090	4,508,090	△ 300,000
会費負担金	214,000	353,000	△ 139,000
旅費交通費	(480,000)	(800,000)	(△ 320,000)
事務局員交通費	480,000	700,000	△ 220,000

【コロナ最悪ケース折込二次】

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
役員交通費	0	100,000	△ 100,000
維持修繕費	0	8,640	△ 8,640
通信運搬費	528,000	250,000	△ 278,000
租税公課	74,000	74,000	0
福利厚生費	100,000	150,000	△ 50,000
法定福利費	(487,023)	(487,023)	(0)
貸借料	487,023	487,023	0
諸事務所維持管理費	140,000	139,968	△ 32
雑費	550,800	600,000	△ 49,200
事務所維持管理費	294,000	200,000	△ 94,000
雑費	80,000	100,000	△ 20,000
経常費用計	12,446,963	16,187,721	△ 3,740,758
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,469,235	796,793	△ 2,266,028
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,469,235	796,793	△ 2,266,028
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,469,235	796,793	△ 2,266,028
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	△ 1,469,235	796,793	△ 2,266,028
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 1,469,235	796,793	△ 2,266,028